

ほうしえんめいかく ほうしげんかんとく  
法師延命閣・法師玄関棟

種 別 国登録有形文化財 建造物  
登録年月日 平成28年11月29日  
所在地 栗津町

栗津温泉の旅館・法師の由来は、養老2年(718)、白山を開山した泰澄が栗津温泉を発見し、弟子の雅亮を還俗させ、湯の管理にあたらせたことに遡る。雅亮亡き後、養子の五郎が善五郎を名乗り二代目を継承。以後その名を襲名した。約1300年続く老舗の温泉旅館である。

延命閣は、木造平屋建て、入母屋造り、棧瓦葺きで、法師の宿泊棟が取り囲む庭園の中央に位置する。那谷寺の解体修理などに携わった名工・南部重造の父で、法師の常大工をしていた南部喜太郎により建てられ、皇族や各界の名士が利用した特別な宿泊施設として知られる。三室続きの書院座敷の間取りと格式を守りつつ、民家風の佇まいと寺社建築の装飾も取り入れ、近代和風建築として完成度の高い建物である。

玄関棟は、木造2階建て、切妻造り、棧瓦葺きで石棟を積む。正面2階には出窓形式の円窓が向かって左から4ヶ所配され、その右に火灯窓を2ヶ所配し、外観を特徴付けている。幾度もの改装を重ねているが、吟味された材料と高い施工技術で建てられており、歴史ある温泉旅館としての繁栄が伺えるとともに、当時の大工技術の高さを今に伝える建物である。



法師延命閣 外観正面(西面)



法師玄関棟 外観正面